



関口さん（左）のかけ声に合わせて「笑いヨガ」を実践

町民の皆さんが、自ら介護予防に取り組めるように、平成28年度から始まった「いきいき百歳体操」事業。現在約300人（21グループ）が参加し、日ごろから介護予防に取り組んでいます。当事業に取り組んでいる人を対象とした研

目指せ「日本一健康なまち桑折」 いきいき百歳体操研修会

研修会が5月31日、やすらぎ園で開かれ、約130人が参加しました。町民の健康状態の説明や高橋町長による講話、関口恭代さんを講師に迎えて「笑いヨガ」を実践するなど、参加者一人一人が自分の現状を見つめ直し、健康意識を高めました。

税の大切さを実感 小学校租税教室

税金の大切さについて学ぶ租税教室が6月7日、半田醸芳小学校で開かれました。町税務住民課職員が講師を務め、アニメやクイズなどを通して、6年生17人に税金の重要性を説明しました。職員が「児童1人あたり年間約93万円の税金が使われています」と紹介すると、児童らは「学校で使うものに、こんなに多くの税金が使われているとは知らなかった」「備品などはより大切にしたい」「豊かな暮らしのために、納税は大切だと実感した」など思いを新たにしました。



約10kgある1億円のレプリカの重さを体感する児童

長年の功績をたたえて 綱島洋一さんへ感謝状贈呈



（右から）熊谷さん、綱島さん、高橋町長

平成31年度から行政相談委員として尽力されている綱島洋一さんに、福島行政監視行政相談センター所長から感謝状が贈呈されました。

綱島さんと昨年同感謝状を贈呈された熊谷孔隆さんは6月1日、役場を訪れ、高橋町長に報告。綱島さんは「これからは行政と町民の架け橋となるように努力していきたい」と話し、町長からは労いの言葉が贈られました。

広告

広告

生産者のたゆまぬ努力が実る 町産桃「あかつき」30年連続で献上桃に指定



▲（左から）高橋町長、佐藤廣武理事、数又代表理事組合長、家久来所長。「あかつき」は7月18日ごろから出荷予定

町産桃「あかつき」が、皇室献上品として県から指定を受けました。皇室への献上は、平成6年から始まり、今年で30回目。東日本大震災および原発事故、新型コロナウイルス感染症拡大後も途切れることなく続いていきます。献上桃決定通知交付式が6月8日、役場で行われました。高橋

宣博町長立会いのもと、県北農林事務所の家久来克之所長からJAふくしま未来の数又清市代表理事組合長へ、決定通知が交付されました。数又代表理事組合長は「震災以降も努力し続けた生産農家の励みになる。町のPR活動にも感謝。献上桃の名に恥じないよう、今後もまい進する」と話しました。

農業分野10人目 地域おこし協力隊委嘱状交付式

町特産桃の産地維持・継承を目的に、桃農家を目指す地域おこし協力隊の委嘱状交付式が5月31日、役場で行われました。委嘱を受けたのは、神奈川県から移住された安藤政浩さん。相原泰之さん（中屋敷）の元で、桃などの栽培技術・農業経

営について学びます。交付式では「先輩農家の指導をしっかり守り、献上桃の郷の名に恥じない桃の生産者を目指したい」と決意を述べました。町の農業部門の地域おこし協力隊は10人となり、「献上桃の郷」の継承を目指して活動しています。



▶高橋町長から委嘱状を受け取る安藤さん（右）

木材の良さをPR 県北森林組合が木製募金箱寄贈

半田山自然公園の管理などを行う県北森林組合から、木製募金箱2台が寄贈され、その贈呈式が6月1日、役場で行われました。寄贈された募金箱は、県産杉を使用して作られ、目安箱としても活用できる造りとなっています。

菅野厚代表理事組合長は「募金活動を通じて木材の良さをPRしたい」と話しました。町は、森林環境を考慮する取り組みの一環として、募金箱を役場内に設置し、緑の羽根募金などさまざまな募金活動に活用していきます。